

# 宮沢裕

みやざわ・ゆたか

衆議院議員

## 経歴

生:明治17年(1884年)1月12日、沼隈郡金江村(現福山市金江町)生まれ

没:昭和38年(1963年)5月23日、享年81歳

明治27年(1894年)	10歳	金江尋常小学校卒業
—	—	神戸へ出奔
明治39年(1906年)	22歳	広島県立福山中学校(誠之館)卒業
明治43年(1910年)7月20日	26歳	福山誠之館卒業生招聘講演会において、六高から「校風振興」の演題で講演(出典1)
—	—	第六高等学校卒業
大正3年(1914年)	30歳	東京帝国大学政治学科卒業
—	—	長野県庁
—	—	逓信大臣秘書官
—	—	内務大臣秘書官
昭和3年(1928年)～ 昭和20年(1945年)	44～ 61歳	衆議院議員(広島3区)連続6回当選
昭和6年(1931年)7月16日～ 昭和6年(1931年)12月15日	47歳	萬國議員会議(ルーマニア)出席、同時に世界20カ国を視察(出典2)
—	—	鉄道政務次官
—	—	商工省参与
昭和9年(1934年)10月12日	50歳	福山誠之館中学同窓会東京支部評議員(出典1)
昭和9年(1934年)10月26日	50歳	福山誠之館創立80周年記念式典で記念講演「心主物従」(出典1)
昭和11年(1936年)	52歳	内閣調査局参与
昭和14年(1939年)	55歳	政友会が分裂し革新派に所属
昭和15年(1940年)	56歳	鉄道政務次官
昭和20年(1945年)	61歳	大東文化大学教授

昭和20年(1945年)	61歳	日本進歩党の結成に参加
昭和21年(1946年)	62歳	公職追放
昭和27年(1952年)	68歳	政界を引退

### 生い立ちと学業、業績

政治家(政友会代議士)。沼隈郡金江村(現:福山市金江町)出身。父親は鹿吉といい、祖父は喜十郎。苦学を重ね、大正3年(1914年)東京帝国大学政治学科を卒業。

長野県庁勤めを経て、一時実業界入り後、逓信、内務各大臣秘書官。その間、昭和3年(1928年)郷里の広島3区から衆議院議員に当選して政界入り。以来連続6回当選し、鉄道政務次官、商工省参与などを歴任。

「典型的な明治人で、愚直ともいえるほど融通のきかない人。厳父そのもので、たいへんな読書家で敬神崇祖を信条とした。自らにも家族にも厳しい人柄だった」(二男・弘の話)。漢籍に造詣深い半面、外国語の辞典を常に座右に置き、世界に目を開く幅広さを持っていた。

『平易なる思想論』『帝国憲法と機関説』などの著書があり、なかでも『日本政治学原論』は長く大東文化学院(現大東文化大学)の教科書にも採用された。

長男の宮沢喜一氏は、参議院議員、衆議院議員を経て、後に総理大臣(第78代)となった。二男の宮沢弘氏は、参議院議員を経て、広島県知事をつとめた。三男の宮沢泰氏は、アルジェリア大使をつとめた。

こと夫人は司法大臣、鉄道大臣だった小川平吉氏の二女。

福山中学校(誠之館)に在学中は、金江の自宅から山南を歩いて学校まで、毎日往復4時間の徒歩通学をしたという。

昭和31年(1956年)1月、福山市鞆町鞆幼稚園内に、「林睦胸像碑銘」を識す。

### 誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	発行所	日付
03915	宮沢裕 著	『買ひ被ぶつてみた欧米－萬國議員会議に使ひして－』	先進社	昭和7年
04822	杉原耕治 著	『忘れられた街道をたずねて－福山歴史文学紀行－』	現代教育研究所	平成19年

出典1:『誠之館百三十年史(上巻)』、763・1074・1170頁、福山誠之館同窓会刊、昭和63年12月1日

出典2:『買ひ被ぶつてゐた欧米－萬國議員会議に使ひして－』、宮沢裕著、先進社刊、昭和7年1月18日

出典3:『福山市金江町誌』、金江町誌発行委員会編刊、平成4年3月1日

出典4:『忘れられた街道をたずねて－福山歴史文学紀行－』、159頁、杉原耕治著、現代教育研究所刊、2007年10月22日

出典5:『福山いしぶみ散歩』、107頁、「林睦」、佐野恒男著、福山市文化財協会刊、1993年5月12日

2005年3月9日更新:肩書・出典●2006年3月31日更新:タイトル・経歴●2007年7月11日更新:写真・経歴・本文・誠之館所蔵品●2007年7月13日更新:経歴・本文・出典●2007年12月11日更新:経歴・本文●2008年2月1日更新:経歴●2012年2月16日更新:本文・出典●